



アメリカの新しい大統領が誕生した翌日から、テネシー州オークリッジ国立研究所(ORNL)に滞在しました。中性子散乱実験のためです。300万もの群衆が集まるという予測のあったワシントンDC, その郊外の空港での乗り継ぎはうまくいくのか心配でしたが、実際はスムーズにいきました。ただし、オバマグッズ(Tシャツ, 帽子)を身につけた人を多く見ました。私もオバマキーホルダーを大学のお土産に大量購入しました。

圧力下の非弾性散乱実験は、バックグラウンドが1分間に2カウントという厳しいものでした。そのため割と時間に余裕があり、ORNLやテネシー大の先生にあう機会に恵まれました。ほぼ全ての方がオバマ氏によせる期待を口にしていました。テネシー大の江上先生によると、「前大統領は、忠誠を誓うかどうか全てで、そこには議論の余地はなかった。この国は良い意味でも悪い意味でも劇的に変わるので、科学者の研究環境は今後ずっとよくなるでしょう」とのことです。

今回、Jaime Hernandez-Bacaさんに実験を手伝っていただきましたが、突然、「京都は大阪に近いのか？」と聞かれました。始めは何故そんなことを聞かれるのかわからなかったのですが、昨年、大阪にて川村代表と20年以上振りの再会を果たされたそうです。お二人に接点があるとは意外でした。当時、JaimeさんがORNLのポストドクのころ、同時期にポストドクだったBruce Gaulin(現McMaster大)さんが、Fisher研に滞在中の川村代表をORNLに招待されたとのことでした。energeticでenthusiasticなところは20年前も今も全く変わらないそうです。巻頭言では、「ホロ苦い思い出」と控えめに述べておられますが、きっとアメリカで圧倒的な存在感を発揮されたに違いないと確信しています。(ただし、Jaimeさん、Bruceさんはそれぞれペルー人、カナダ人です)。



4年前、2歳の息子が作った初めての三角形。クレヨンをつかって一個できたときとても喜んでいたのが印象的。次に目をやったときには、あっという間に畳の上が三角だらけに。

陰山 洋

特定領域研究「フラストレーションが創る新しい物性」

ニュースレター Vol.5

2009年3月発行

発行者 川村 光(大阪大学 大学院理学研究科)

編集担当 有馬 孝尚(東北大学 多元物質科学研究所)

陰山 洋(京都大学 大学院理学研究科)

編集協力 宮崎 史枝(大阪大学 大学院理学研究科)